

【事業所名】 養護老人ホーム 大森老人ホーム

I 事業運営の基本方針

高齢者が地域で自立した生活が継続できるよう地域包括ケアシステムの拠点として、医療・介護・生活支援等を切れ目なく提供し、養護老人ホームとして地域のセーフティネット機能を担う。関係機関と連携し、地域に根ざした施設運営と機能の維持向上を図る。

II 中期的目標

項目	内容
1 ニーズの多様化と支援の質・専門性の向上	(1) 施設利用者への支援・援助者として倫理観と専門性を向上させる。 (2) 多様化する支援ニーズに対応するサービスの質と専門性の向上と職員のスキルアップを目指していく。
2 地域社会から信頼され貢献する施設として	(1) 地域住民が参加できる事業の展開。 (2) 地域共生社会に向け、地域の高齢者や子供との交流・支援する事業の情報発信に努め、信頼される拠点となる。
3 安定した経営基盤の確立	(1) 利用者確保と適切な予算執行・将来に向けた資金積立・積立金の計画的執行。 (2) 事業継続計画(BCP)の実効性を高めるため、随時、計画の見直しを行う。

III 年間計画(進行管理表)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
年間計画	○利用者サービスへの取組(毎月:ヒヤリ事故報告検討会・懇談会・サービスマナー向上)(随時:支援計画書更新・ケース会議、苦情相談受付・解決)												
	身体拘束廃止検討		第三者委員会	身体拘束廃止検討	虐待の芽チェック		身体拘束廃止検討				身体拘束廃止検討	虐待の芽チェック	
	委員会・研修			委員会・研修	職場体験学習受入		委員会・研修	複合施設防災訓練	法人協交換研修	委員会・研修			
	○職員への取組(研修年間計画一覧表:人権研修・法人内研修・施設内研修・外部研修・救命救急講習等)(FM・NI コラボ見直し更新、生成 AI 連動)(業務改善・手順書見直し更新)												
			熱中症予防研修	食中毒予防研修	虐待防止研修			ガウンテクニック実習	嘔吐物処理実習	喉詰り対応実習		虐待防止研修	ハラスメント研修
○地域社会への取組(毎月:ホーム DE ランチ、100 オバンザイ体操)(登校日:見守り隊)(小学生交流・高齢者体験)(高校生交流)(児童館:映画会)(実習・体験受入:社会福祉士・教員免許法に関する介護等体験)(集会室貸出:健康体操等)													
○経営基盤強化への取組(毎月:運営会議、感染症対策委員会、給食委託定例会議、防災訓練)(不定期:BCP 委員会)													
○持続可能な社会の実現に向けての取組(毎月:フレイル予防体操、チャレンジカード)													

IV 事業の計画

事業の課題	取り組む内容
1 利用者サービスへの取組	
(1) 人権尊重の徹底 利用者の主体的な意思決定を最優先に、個人の尊厳を保持した高品質なサービスを追求。あわせて、安全管理体制の徹底により、心身ともに安寧な生活環境を構築する。	① 入所者の意思を尊重した支援計画の作成ならびに、計画に沿ったサービス内容の実践と評価 ② 虐待の未然防止・早期発見を目的に、定期的に(2回)「虐待の芽チェックリスト」を実施 ③ 利用者の自己決定を尊重し、人格と価値観に配慮した支援を行う。
(2) 苦情解決・相談体制の整備 苦情や意見・相談は、適切に対応し、社会性や客観性に基つき公正、円満に解決を図る。	① 利用者の立場や特性に配慮した対応推進のため、年2回の第三者委員会実施と訪問の機会を設ける。 ② 相手の心情を理解し、迅速に行動することにより二次クレームに繋げないようにする。
(3) 事故防止対策 避けられない場合があることを前提としながらも、事故を起こさないための防止策の徹底	① 事故防止および安全意識向上を目的とした研修に参加し、事故防止に向けた知識の習得を図る。 ② 毎月の事故報告委員会において、当月の事故およびヒヤリハットを報告・確認し、発生要因や対応状況を踏まえ、再発防止策を検討して業務改善につなげる。
(4) サービスの質の確保 常にケアを見直し、より良いサービスを届ける。	① その人の今を尊重できるよう、日々の接し方やケアのあり方を共有する。 ② 第三者評価を継続受審し、サービスの向上に努める。

2 職員への取組	
(1) 人材の確保・育成・定着 福祉サービスを安定して提供するため、職員が安心して働ける環境を整える。	① 適切な人員配置や研修体制を整え、職員が安心して成長できる環境をつくる。 ② 自己申告書などを通じて業務のやりがいや評価を可視化し、誰もが働き続けたい職場環境の実現を目指す。
(2) 人材の活用 人材を効果的に活用し、業務を効率よく進める。	① 介護福祉士や社会福祉士など資格を持つ職員を適材適所で配置し、質の高いサービスを安定的に提供する。 ② 年齢・性別・経験の違いを尊重し、多様な人材が安心して長く働ける職場を整える。
(3) 職場環境づくり 健全な職場環境の推進	① ハラスメント対策の徹底やストレスチェック結果の活用を通じて、心身の健康保持に努める。あわせて、各種規程の周知を図り、安心して働ける職場環境づくりを推進する。
3 地域社会への取組	
(1) 地域貢献 施設の社会化と地域の発展に寄与することを目的とする。また、養護老人ホームの存在、知名度をあげていく。	① 地域のニーズ把握に努め、必要とされる支援を行う。 来所者の他、地域や関係者の声を聴き、介護・生活支援や相談対応など、必要とされる支援を提供する。 ② 社会資源の一つとして、関係機関と連携を図る。 年1回の地域連絡会など行政や福祉団体などと連携し、地域で安心して生活できる支援体制の充実を図る。 ③ 地域に根差した福祉サービスの提供を推進する。 施設開放などを通じて地域との関係を深め、地域に根差した福祉サービスを推進する。
(2) 災害対応(大規模災害への備え)	① 複合施設や町会の防災訓練に参加し、災害時の安否確認や避難支援における地域連携体制を強化する。
4 経営基盤強化への取組	
(1) 収入増への取組 安定的な運営を目指した取組(定員の充足)を図り、安定した収入確保に努める。	① 目標稼働率は100%(130名)とし、全職員で共有しながら達成に向けて主体的に行動できる体制を整える。 ② 実施機関との情報交換を密にし、要措置対象者の状況把握に努め入所につなげる。
(2) コスト削減への取組 ICT導入による業務管理の効率化と運営コストの削減を図る。	① 記録や情報管理の電子化により業務時間および超過勤務を削減し、1人あたりの年間超過勤務時間を30時間以内とすることを目標に人件費の適正化を進める。また、電子化の導入により、情報共有不足による業務上のミスや確認漏れ、インシデントの防止を図る。 ② FileMaker(データベース)を活用した在庫管理を行い、使用量と在庫状況を可視化し、過剰発注や廃棄を防止、物品コストの削減を図る。
(3) 施設設備等物的基盤整備 老朽化に伴い設備面の劣化が課題となっている。対策を計画的に取り組んでいく。	① 開設から30年が経過し施設・設備の老朽化が進んでいるため、利用者の安全確保と安定的な事業継続を目的に優先順位を定め計画的に改修・更新を進める。併せて、東京都と協議し積立金活用を検討する。
(4) 組織・システム 組織運営体制の整備。	① 進化推進委員会を設置し、役職・業務ごとに権限を明確化するとともに、文書の一元管理と適切な共有体制を整備し、迅速かつ透明性の高い事業運営を実現する。
(5) 災害・感染症対応(危機管理) 利用者・職員の安全確保と感染拡大の防止を最優先としそれぞれの課題に取り組む。	① 災害・感染症リスクへの対応(BCPの更新) BCP委員会による災害・感染症リスクの把握と対策により、事業継続性を確保する。 ② 安全・危機管理体制の強化 非常時の役割分担と対応手順を随時見直し、迅速な対応を可能にする。
(6) 情報セキュリティの強化 情報を正しく管理し、漏洩や紛失を起こさないようにする。	① ガイドラインの周知ならびにマルウェアの感染や情報漏洩などのセキュリティ事故を未然に防ぐ職員研修の定期的開催
5 持続可能な社会の実現に向けての取組	
(1) SDGsの取組 選ばれる施設としてそれぞれの課題に取り組み、職員には、SDGsを「自分のこと」として捉えさせる。	① 全ての人に健康と福祉を(目標3) 介護予防に力を入れ、リハビリ、認知症予防などを地域高齢者に提供する。 ② 働きがいも経済成長も(目標8) 豊かで安心して働ける職場環境の提供 ③ つくる責任つかう責任(目標12) 廃棄物の発生防止、削減(段ボール、おむつ、梱包資材、食品ロス)